

株式会社ナカリキッドコントロール

営業力・開発力磨き、

名実とも世界トップメーカーに

- 海外可
- 納期相
- 企画力自信有
- コスト相
- 試作可小ロット
- 量産対応



ギアポンプ式 2液計量混合吐出装置 [CF-25]



卓上ディスペンサーの「カッパー5」

業務内容

液体定量吐出装置で車載などの電子部品製造に貢献

ディスペンサー（液体定量吐出装置）は、精密電子部品や車載電子部品などの生産工程に必要不可欠な装置。その開発から製造・販売までを自社で一貫しており、同分野ではトップメーカーの一角を占めている。エレクトロニクス業界を筆頭にナカリキッド製装置の活躍する現場は幅が広い。プリント基板、コイルなどの樹脂コーティング、炭素繊維の接着や金型内炭素繊維への樹脂充てん、LED（発光ダイオード）デバイスへの蛍光体を含んだ樹脂の封入などにも使われている。自動車の電子化は追い風。点火コイルから、各種センサーなどへと車載電子部品は広がりを見せており、「自動車向けは60%から70%を占める」と仲昌男社長は説明する。最近ではハイブリッド車に使われるIGBT（絶縁ゲートバイポーラトランジスタ）といった省エネルギーのパワーモジュールでも、ディスペンサーは必要とされている。

強み

吐出制御技術とコア部品の内製力で高い商品力を実現

接着剤や合成樹脂など扱う液体の種類は豊富で、その特性に応じてディスペンサーも種類が多岐にわたる。また省力化、効率化の要求に応えるべく、多連式の注入装置もラインアップにそろえている。ディスペンサーは樹脂や塗料などを高精度に定量を吐出する制御技術が核となる。長年にわたり、最先端の素材や技術を展開する生産現場の要求に応じてきたことで、開発力は鍛えられてきた。装置の性能を左右する心臓部、ポンプユニットは内製にこだわっている。これまでに蓄積してきた制御のノウハウと差別化のための内製力、その両輪でこれからも顧客の

期待に応えていく。

ブランド

デザイン力高めて世界的なブランドの確立を目指す

仲社長は「美しいものづくりを目指していきたい」とデザイン力の獲得に意欲を示す。今後拡大を狙う海外市場での地位向上には、ブランドの確立が重要。そのためにはデザインは必須となる。今、まさに外部の知見を活用しながら洗練されたデザインを模索しているところ。「中身がしっかりしていないといけない。泥臭い。デザイン力が重要だ」との持論。外観だけでなくシステムとしてのデザイン性向上に取り組んでいく。

今後の展望

工場自動化で協業生かし、海外ビジネス拡大へ

海外展開を当面の課題としている。そのため、平成26年にはコイル巻線線メーカーの日特エンジンアリング（株）と戦略的協業を始めた。共通のプラットフォームを用いて、前後工程を組み合わせた自動化提案なども視野に入れており、すでに営業面では相乗効果が生まれつつある。同社の高い技術力には各方面からも注目が集まっており、近畿経済産業局主催の「関西ものづくり新撰2015」にも選定。販路拡大につなげようとしている。「ユーザーが使いやすい、わくわくするような機械を作りたい」。ナカリキッドコントロール「NLC」を世界に通用するユニークなディスペンサーブランドとするのが目標。外観デザインだけでなく、次代に事業の柱となるような新技術の取り組みや営業力の強化などにも余念がない。



NLC 本社社屋

COMPANY PROFILE

株式会社ナカリキッドコントロール

大阪26

大阪26

ISO 9001
ISO 14001

当社の歴史

手でやることを機械に置き換えて、うまく定量にできないか。今から40年ほど前、精密部品加工の工程改善に開発したのが、始まりです。当初の1液が2液になり、「2液計量混合吐出装置」につながりました。30年ほど前には、テレビのトランス向けに真空注入技術を業界に先駆けて実用化しました。真空環境で均一に注入していく技術は当社の基礎。「2液性樹脂真空注入装置」は代表する製品のひとつです。

ディスペンサー装置は高度な技術力を必要とし長年の技術開発の経験から高品質の機器を提供できます。

代表取締役社長 仲昌男さん



■主な事業内容

ディスペンサーの開発、製造・販売

■主な取引先（納入先）

自動車電装部品メーカー

住所 / 〒570-0003
守口市大日町
2-18-1

TEL / 06-6905-1391

FAX / 06-6905-3322

創業 / 昭和56年10月

設立 / 昭和56年10月

資本金 / 2,000万円

従業員 / 68名

<http://www.nlc-dis.co.jp>